

付着生物ラーバ情報

洋上籠洗浄は異常貝の状況を 確認しながら行いましょう

1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ミネフジツボ (通称: シロガキ)

ラーバは奥内沖で1.7個体/m³、久栗坂沖で1.1個体/m³見られました (図2)。

(2) キヌマトイガイ (通称: コメガキ)

ラーバは奥内沖で262.5個体/m³、久栗坂沖で131.7個体/m³、川内沖で492.2個体/m³見られました (図3)。

(3) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは見られていません。

(4) オベリア類 (クラゲの仲間、通称クサ) アミクサ (海藻、通称クサ)

クラゲ、小枝は見られていません。

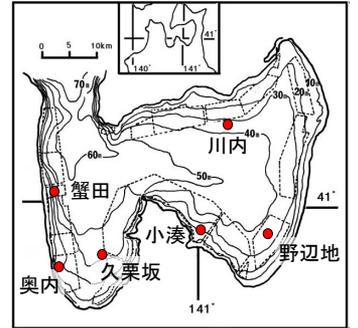


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ミネフジツボ	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキガイ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
奥内沖	R3.3.15	1.7	0.0	0.0	262.5	136.7	0.0	0.0
久栗坂沖	R3.3.15	1.1	0.0	0.6	131.7	91.1	0.0	0.0
川内沖	R3.3.16	0.0	0.0	0.0	492.2	156.3	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は4~9℃台と、平年並み~やや高めになっています。

(1) ミネフジツボ

付着直前のラーバは、ほとんど見られなくなり、今後の付着は少ないと思われます。

(2) キヌマトイガイ

ラーバが継続して出現していることから、籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加すると思われます。

(3) ユウレイボヤ

1月以降ラーバは見られておらず、水温も平年並み~やや高めに推移しています。また、多くの地域でユウレイボヤの多量付着が見られないことから、今春の出荷時の付着量は少ない見込みです。

(4) オベリア類、アミクサ

クラゲと小枝は見られていないので、付着は少ない可能性があります。

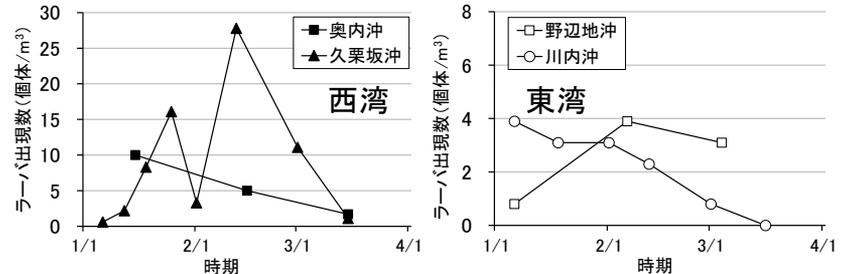


図2 ミネフジツボ ラーバ 出現数の推移 (令和3年1月~3月)

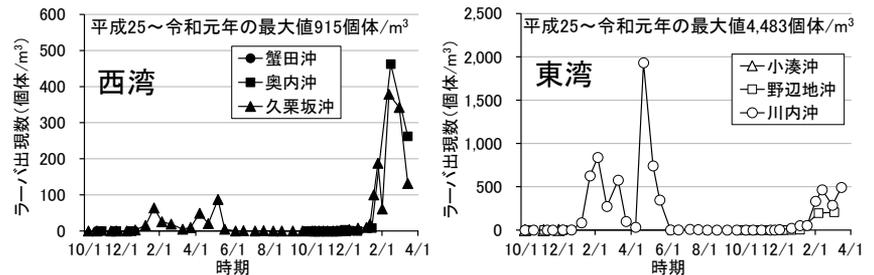


図3 キヌマトイガイ ラーバ 出現数の推移 (令和元年10月~令和3年3月)

3 洋上籠洗浄の注意点

ホタテガイに異常貝が多く見られる場合、洋上籠洗浄を行うことにより、さらに異常貝が増え、へい死する危険性があります (図4)。

洋上籠洗浄は異常貝の状況を確認しながら行いましょう。また、作業はホタテガイが凍結しないように暖かい日に行うようにしましょう。

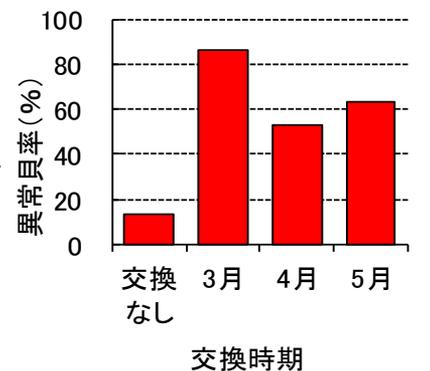


図4 洋上籠洗浄を模したネット交換によるホタテガイの異常貝率 (西湾で平成29年6月測定)

4 お知らせ

今季の付着生物ラーバ情報は今回で終了です。今後のキヌマトイガイ、ムラサキイガイのラーバの出現動向については、ホタテガイ採苗速報を参考にして下さい。

